

ZANDEN Model 120 の展開(68) ーベーターヴェンを聴き直す(3)ー

1. 始めに

前報(67)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンのピアノ 3 重奏の下記を選定しました。

VOX TURNABOUL TV4 34411

AUCHDUKE Trio B-flat Major Op.97

Pablo Casals (チェロ)、Sandor Vegh (ヴァイオリン)、
Mieczyslaw Horszowski (ピアノ)

DENON OX-4035-ND

AUCHDUKE Trio B-flat Major Op.97

Josef Chuchro (チェロ)、Josef Suk (ヴァイオリン)、
Jan Panenka (ピアノ)

DENON OF-7088-ND

AUCHDUKE Trio B-flat Major Op.97

Josef Chuchro (チェロ)、Josef Suk (ヴァイオリン)、

Josef Hala (ピアノ)

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(6\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(7\)](#)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。VOX TURNABOUL のカザルス盤は、Columbia、逆相、第 4 時定数 Low で、DENON のスークトリオの 2 枚の盤は、Columbia、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

VOX TURNABOUL のカザルス盤は、ジャケットにベートーヴェンハウスでのライブ録音という記載があり、オーディオ的な音質は期待できませんが、音合わせから録音されており、ライブ感が楽しめます。ピアノの音は素朴な感じがしますし、チェロもヴァイオリンもホールで聴くような豊かな響きはなく、ごく素朴な音ですが、以前の印象よりライブ感が向上しており、ベートーヴェンの時代に演奏されていたような雰囲気を感じられます。

DENON OX-4035-ND のスークトリオ盤は、1975 年の初期の PCM 録音です。以前の印象では、アナログにしては、ぎすぎすした素っ気ない感じがしていましたが、スークトリオの演奏の良さが分るようになってきました。

DENON OF-7088-ND のスークトリオ盤は、1983 年の録音で、同じ PCM 録音ですが、この間の進歩は著しく、スークトリオの深淵、かつ緻密な演奏が一層良く捉えられています。

4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上